

# 第24回 神奈川県小学校教育研究会社会科部会「川崎大会」 川崎市小学校社会科教育研究会 6年部会提案

<神奈川県小学校教育研究会社会科部会 研究主題>

人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育

<川崎市小学校社会科教育研究会 研究主題>

ともに生きる未来を創造し、よりよい社会の在り方を問い続ける社会科学習

<R7 研究の重点>

深い学びの実現に向けた一人一人が生きる社会科学習

<6年部会が目指す姿>

自ら課題を見つけ、知識や技能を活用して、他者と協働しながら新たな概念や価値に気づき学ぶ姿

6年部会では目指す姿「自ら課題を見つけ、知識や技能を活用して、他者と協働しながら新たな概念や価値に気づき学ぶ姿」に向けて、大切にしたいことを話し合った。事実的知識を獲得し、比較・関連・総合をすることで概念的知識を得ることができる。これらを活用することで深い学びが実現できると考えた。そのため、次の二点を大切に、授業実践に取り組むことにした。

## ○6年部会が考える研究の重点に迫るために大切にしたいこと

### ①自ら課題を見つけ追究する

▶自ら問題を見出し追究することで、主体的に問題解決的な学習を進め概念的知識を獲得すること

### ②概念的知識を活用する

▶これまでの学習で獲得した概念的知識を活用して考えたことを、自らの言葉で語ること

これまでの実践をもとに、深い学びが実現したと感じた時と実現しなかったと感じた時について分析を行った。そこで、深い学びが実現しない原因と実現した要因を次のように整理した。

#### 深い学びが実現していないと感じた原因

- 個の学びで終わってしまう
- 問いが子どもの学びたいことと合致していない
- 問いが見つけれられない。自分事になっていない。
- 学級の習慣や環境が整っていない(対話文化がない)

#### 深い学びが実現したと感じた要因

- 単元の後半にこれまでの学びを生かす問いや場面が設計されている
- 学びの楽しさを味わえる問いや活動がある
- 他者と比べたり共有することで学びの意味を理解している

上記のことから、深い学びを実現させるには、問いが重要であることを再認識した。また、学びの深まりや自己の成長を実感することで得られる学びの楽しさを味わうためには、振り返りが大切だと考えた。そこで6年部会では、次の二点を視点として設定した。

#### 視点①

深い学びを実現させる問い

#### 視点②

学びの深まりを実感する振り返り

## 視点1：深い学びを実現させるための問い

社会科の学習において深い学びを実現させるには、良質な問いは欠かせない。子ども自身が探究したいと思い、学習を進めていく動機となるものにしていきたい。さらに、問いをもつに至るまでの過程で学びの熱量を上げるようにすることで、主体的な問題解決に繋がると考えた。

＜本単元では＞

1・2時間目には歴史学習の振り返りを行う。そこで、どの時代でも今をより良くしようと先人たちが努力していたことを捉え、未来をつくる自分たちも、将来をより良いものにしたいという思いを育む。

3時間目に令和7年度平和祈念式典 こども代表『平和への誓い』で、自分たちと同じ、小学校6年生が未来に向けて活動しているという事実に出合う。自分と同じ小学生がすでに動き出している事実から、自分たちもより良い未来に向けて動き出したいという意欲につながるのではないかと考えた。

また、事実に知識を獲得するだけでは深い学びは実現できない。既習を生かし子ども同士で考えをつないだり、新たな社会的事象に出合ったりすることで概念的知識が獲得でき、深い学びに迫ることができると考えた。獲得した知識をいかせる問いを通して、深い学びの実現を目指していきたい。

＜本時では＞

3・4時間目の問いを「日本をよりよくしていくために、私達は、どのようなことを大切にしていっていいだろうか」とした。獲得した知識を活用し議論し合えるよう、答えが一つではなく多様な考えを交流することで、新たな価値に気づいたり自分の考えが深まることをねらっている。

### 6年部会が考える深い学びにつながる問いの例

○学び手が考え続ける価値を感じる問い(必要感、切実感)      ○教科や単元を越えて考えたい問い

○自分の経験や価値観と接続できる問い(これまでの学びを生かせる)      ○答えが一つではない問い

## 視点2：学びの深まりを実感する振り返り

振り返りは、深い学びを実現させるための学習活動として位置づける。多様な考えをもとに再考したことを言語化することで、学びの深まりを自覚できると考える。そのために、振り返りの視点を意図的に設け、スプレッドシートを活用し、継続的な記録をしていく。

＜振り返りのポイント＞

①子どもの気づきから生まれる振り返りの視点	①現代とのつながり ②先人たちへの思い ③この時代の人たちに伝えたいこと ④日本を発展させた人物や出来事 ⑤これからの自分にいかせそうなこと
②継続的な記録	①スプレッドシートを活用することで、いつでも、どの単元でも見返せる ②学習の軌跡を継続して見取り、共有することにより成長の可視化、自覚を促す

歴史学習の70時間の中で、歴史の転換点を次の5回に設定した。それぞれ、国を治める中心となる人物の立場が変わったり、政治の在り方が大きく転換したりした点で設定をした。これらのタイミングで「歴史を学ぶ意味」を問うことに繋がる振り返りをする。歴史学習を通して、自らの成長を実感できるようにし、本単元においては、問いをもつための手立てや、本時の自分の考えをもつ際にも手立てとしたい。

＜歴史を学ぶ意味について振り返るタイミング＞

回	区分	振り返りのタイミング	どのような問いを設定して振り返りをしたのか
1	古代	むらからくに、天皇中心へ	「日本はどのようにしてまとまっていったのだろう」
2	中世	天皇中心から武士中心へ	「武士中心の世の中を実現するために、効果的だった政策や人物の活躍はなんだろう」
3	近世	武士中心から天皇中心（近代化）へ	「条約改正をするために効果があったと思う政策や出来事はなんだろう」
4	近代	日中戦争 第二次世界大戦争	「戦争は、人々のくらしや考え方にどんな影響を与えたのだろう」
5	現代	戦後復興から現代へ	「戦後の日本はどんなことを大切に復興してきたのだろう」